

国際親善で本町を表敬訪問

4月2日、ロータリー財団の文化交流プログラムにより来日されたドイツ人のバステアン・フックスさんが、山口町長を表敬訪問しました。

フックスさんは29歳。職業は弁護士で、本町の山本求道さんがホストファミリーとなり鹿児島県での研修に臨まれました。国際ロータリーの会員と一緒に町長室に案内されたフックスさんは、「皆さんに大変親切にしていたと思います。また薩摩町は、自然豊かな環境でドイツと似たところがありますね。」と話されると、山口町長は「遠くまでよく来ていただきました。日本での研修が実りあるものになるよう、ドイツでもがんばってください。」と激励しました。

フックスさんは、開催されていた、現代ガラスの美展なども見学され、たいへん感激した様子でした。

▶表敬訪問されたバステアン・フックスさん



町商工業の発展のために 町商工会総会開催

町商工会は、5月20日町商工会館で通常総会をおこないました。総会には会員など89名が参加。

最初に山本求道町商工会長が、「厳しい環境の中、商工会はより広域な視野に立った事業活動が要請されており、今後も地域社会の発展と活性化に向けて積極的に取り組んでいく必要がある。」とあいさつしました。

その後平成15年度の事業報告、決算並びに平成16年度の事業計画、予算案、役員改選などについて審議をおこないました。今回消費税の免税が1,000万円に変更になったことに伴う説明会・個別相談会の実施や合併対策事業の実施、商工会加入金の変更などが議決されました。

また今回優良従業員として、勤続38年の新田嘉次郎さんが表彰されました。

◀町商工会総会の模様



びっくり箱



〔作文〕

お母さんありがとう

永野小三年 有田百花さん

母の日、私は前から作っていたピーズのキーホルダーとストラップをお母さんにあげました。いつもいつも私たちがのために一生けんめいに、がんばっているお母さんに少しでもかんしゃの気持ちを伝えたくったからです。

わたすときには、「お母さん。いつも、いつもおいしいごはんを作ってくれたり、おそうじやせんたくをしてくれてありがとう。」と言ってわたそうとを考えていました。

ふうとうに手紙といっしょに入れて、いざわたそうとしたら、てれくさが急にこみあげてきて、とてもはずかしくなつて何も言えずにだまつたままお母さんの目の前にふうとうを出していました。でもおかあさんは何も聞かず、何でもわかつてるように、「ありがとう。大事にするね」と言つて受け取ってくれました。

た。私のほつぺたはきつとまつ赤だったかもしれませんが、でもうれしくて「へへへッ」と声を出してしまいました。

その日はできるだけ散らかさないつもりでいました。でもすぐに散らかつてしまいました。

「いけない。いけない。」と思ひながらすぐにかたづけました。お母さんにその日だけは、めいわくをかけたくなかつたからです。

そして、色々なお手伝いもしました。夕ごはんを作る時、お茶わんを洗う時を手伝いました。おふろだつて先に入ってもらいました。もっともつとお母さんがよるこんでくれそうなことを考えたのですが、私にできることはお手伝いすることぐらいしかありませんでした。でもお母さんがいつもよりニコニコして楽しそうに一日をすごしてくれていたみたいで、わたしは、「がんばつてよかったなあ」と思いました。

お母さんにはいつもおこらせてばかりで、ストレスを